

教育プログラムを実践

アメリカで開発

子どもたちに人との関わり方や、相手や自分の感情を理解する方法を身につけさせるアメリカの教育プログラム「セカンドステップ」の指導資格を、日置堀田の廣岡綾子さん(49)が取得している。県内では唯一人。下関市豊北町神田の「きらきら保育園」では、昨年からは廣岡さんを講師に招き、同プログラムによる子育てを実践したところ、子ども同士がケンカをしても、ほかの子が仲裁に入るようになった、子どもたちが積極的になった―など、子どもたちに変化が見られるようになったという。

県内唯一人
指導資格者

廣岡さんが保育所で

セカンドステップは、元々、子どもを性的な被害から守る目的で、アメリカの「CFRC」(子どものための委員会)が開発した教育プログラム。これを、いじめ防止や社会性を身につけさせるトレーニングに応用し、日本

に輸入した。きらきら保育園では、年長児を対象にプログラムを導入。授業では、主に写真教材を使用。写真には、喜怒哀楽の表情や仕草をした子どもの姿や、「テレビが見たいのに、友達が強引に話しかけ

てくる」といった、日常生活の困った場面などが写し出されている。この写真を子どもに見せ、「この子は今どんな気持ち?」「友達とケンカにならないためにはどうしたらいい?」など、具体的な質問を投げかけ、子どもたちが自由に回答している。また、人の形を描いた用紙を配り、怒った時、人の体には



〈豊北町の保育園で「セカンドステップ」の指導をする廣岡さん〉

どういふ変化が起こるか―を子どもたち自身に描かせ、「怒り」の感情を理解させるなど、実践的な内容が中心。絵本や人形劇なども取り入れ、子どもたちが飽きないよう工夫を凝らしている。一回のプログラムは約三十分、これを毎週一回、約半年間続けて

きた。各講座終了後は、保護者を対象にした「ばばママ講座」も開き、保護者への普及にも務めている。このプログラムで子どもたちの様子も変化。園職員からは「ケンカが起こつて

も、ほかの子が第三者の立場で仲裁に入るようになった」「泣き虫だった子どもが泣かなくなった」「子どもたちの積極性が増した」などが報告がされている。

廣岡さんは、自宅で小学四年生の里子を預かっていることから、社会性を身につけさせるのに役立てば―と独学で勉強をはじめ、指導員の資格を取得。現在は同園のほか、ご主人が施設長を務める俵山湯町の児童養護施設「湯の家」でも、同プログラムを取り入れている。廣岡さんは「市内の保育園や幼児の親御さんなど、興味がある方は気軽に相談して欲しいですね」と話している。

問い合わせは廣岡さん(37・5005)まで。